NO 154（2015年 7月・8月）ブログ 毎日更新しています（＾－＾）
ブログ たんぽぽだより

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして
みんなが住んでよかったと思える川西市に・・・

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控え室 TEL７４０－１１１１（内線4020）
直通FAX７５９－１８１１
黒田みち事務所 TEL ７９５－４７６０
たんぽぽだよりブログ
http://kurodamich.exblog.jp

川西市 自衛隊に「名簿」提供

本人、保護者知らぬまに（15歳・18歳・21歳）

川西市が自衛隊に、２年間18歳男女の個人情報（氏名・住所・性別・生年月日）3122人分を提供していた～たんぽぽだより153号でこうお伝えしていましたが、その後の調査で昨年度は15歳男子879人分、21歳男女1334人分の名簿も提供していたことが明らかになりました。本人や保護者に無断で一覧名簿を提供することはやめるべきです。

間違ったままスルー

15歳の名簿提供に関連して、中学卒業生向けの陸上自衛隊高等工科学校は、09（H21）年の自衛隊法の改定で、「自衛官」ではなく「生徒」扱いに変更されましたが、自衛隊が誤って名簿を依頼し、市はそのまま提供。後に自衛隊からの指摘で「破棄」したというとてもお粗末な間違いを起こしていたことが明らかになりました。

市は、名簿の提供を自衛隊員募集事務の受託を定めた自衛隊法97条や自衛隊施行令120条を根拠に、「川西市の個人情報保護条例」の例外規定として正当化しますが、提供するかどうかは、あくまで自治体の判断です。（三田市・猪名川町は提供していません）

自治体が住民に全く知らせず衛隊に個人情報を提供する恐ろしさ、アメリカと同様、貧しさゆえに自衛隊に入るよう誘導する「経済的徴兵制」の検討（文部科学省）。伊丹・中部方面隊の米軍との演習にオスプレイの参加を検討し、現在審議中の安保法案が通れば、大阪国際空港が軍用にも使用できるなど「戦争する国つくり」が進められています。

衆議院では自民・公明両党が数の暴挙で強行可決しましたが、まだ決まった訳ではありません。いろいろな事実・情報を共有しながら、憲法違反で民主主義を破壊する「戦争法案」を廃案にするまでがんばりましょう。

大型ごみの有料化すべきではない！

本会議 5点の「反対理由」あげて討論

「大型ごみの有料化」案は6月18日の厚生常任委員会で可決（反対2、賛成6）されました（前号で詳細）が、29日の最終本会議で私（黒田）は議員団を代表して「道理のない大型ごみの有料化はやめるべき」と資料パネルを持ちながら、大きく5つの理由で反対討論しました。本会議でも有料化案は反対5、賛成20で可決され、残念ながら成立しました。（議会ホームページで映像配信中）

1、一般廃棄物処理基本計画の市民アンケートでは、ごみの有料化賛成は5％。反対が49.1％。条件付き賛成が27.9％。平成26年度市民実感調査では、ごみの収集・処分に関して87.8％の方が満足されています。ごみの減量化や他市町でやっている剪定枝のチップ化や廃油のせっけん化などを急ぐべきです。

2、「大型ごみの有料化」案は7年前に全会一致の反対で「廃案」になりました。こうした経過を十分検討せず、議員協議会で1度話し合っただけ。住民への説明は「決まってから」の一点張り。「有料化はやめて」の請願署名が短期間に5442筆も集まり、こうした住民の声をしっかり受け止め検討するべきです。

3、有料化の理由にしている「ごみの減量化」は当然進めるべきです。川西市の減量化は、国や県レベルより進み、リサイクル率も向上しています。

総ごみ量中の「大型ごみ」は、わずか7％（国崎クリンセンターの数字では5.2％）。大型ごみを減らしても効果は低く、大型ごみ自体も減る保証はありません。総ごみを減らすためには、一般ごみの減量化や他市町でやっている剪定枝のチップ化や廃油のせっけん化などを急ぐべきです。

4、川西市の「排出調査」によると、「大型ごみ」の約2割が「分別間違い」。「有料化」ありきで突き進むのではなく、まずは、分別のあり方などを徹底すべきです。市としてやるべきことをやった上での「有料化」ならわかりますが、まず市民に負担ありきでは道理が合いません。

5、今まで通りの「無料」収集が、一番合理的で公平です。有料化のために、3人の職員を雇用、コンビニなどの手数料等に毎年1200万円もの経費をかけます。集合住宅や狭隘な道路に隣接する住宅などは何も便利にはなりません。国崎クリンセンターに持ち込めば、10kg当たり80円の負担で済みますが、南部の人ほど遠方で利用しにくく、「不公平感」が大きくなります。市民に格差を持ち込むべきではありません。

ご意見・ご要望 お気軽にお聞かせください。

＊＊＊ 黒豆の声 ＊＊＊

「青い海」・・・どれだけ
たくさんの「青」があるのだろう
陽光を浴びてキラキラと輝く綺麗な海
素晴らしく美しい海に魅せられる
沖縄 大浦湾
辺野古の基地建設埋立てで
壊されようとしている海 生き物
オイルフェンスで囲まれ
10～45トンものセメントブロックが
幾つも沈められている・・・
ここにはオーストラリアの世界遺産
グレートバリアリーフより
百種以上多いサンゴがあるという・・・
ジュゴンをはじめ まだまだ
未知の生き物が生息するという・・・
十分 世界遺産になれる
豊かな自然を育む海
世界遺産になる条件は、環境を
「自国の法律で守ることが
できるのか？！」が要
日本の国なのに「アメリカ」・・・

沖縄の北部
ヤンバルクイナなど希少生物が
たくさん住んでいる高江の村
基地の負担軽減とわずかの土地は返ってきたけれど「空」は返ってきません
それどころか代替えとして
県道からわずか１５０ｍ
民家から５００ｍの処にオスプレイが
離発着するヘリパッドが幾つも建設
日常の中にジャングル訓練で武器を
持った米兵達
ここはどこの国？！

嘉手納基地周辺
基地外住宅が増え続ける
北谷のまちの人口は２万９千人
そのうちの４５００人が米兵
プライバシー保護のため米兵は
住民票を移さないのだと・・・
基地外なのに治外法権
日本の国なのに「アメリカ」・・・

これでいいはずがない
この国は日本 私達の国
未来は私達が決める！！

戦争法案廃案へ国民と共に全力

「独裁政治拒否しよう」

本会議で反対討論 志位委員長が呼びかけ

憲法9条を踏みにじり、日本を「海外で戦争する国」につくりかえる戦後最悪の戦争法案が16日の衆院本会議で、自民、公明両党によって強行採決されました。審議すればするほど違憲性が明らかになり、「採決反対」「説明不十分」との世論が広がるなかでの暴挙です。日本共産党の志位和夫委員長は反対討論で、「憲法違反の戦争法案の採決は断じて認められない」と満身の怒りをもって糾弾。討論後、共産、民主、社民の各党議員らは採決に抗議して退席し、維新は、同党の対案が否決された後に退席しました。生活は、本会議に出席しませんでした。

自公強行 衆院を通過

志位氏は討論で、国会論戦を通じて、戦争法案の違憲性が明瞭となったと力説するとともに、「民主主義を破壊する独裁政治を断固として拒否しよう」「戦争法案を必ず廃案に追い込むために、国民のたたかいとスクラムを組み、全力をあげる」と決意を表明しました。

反対討論では、民主党の岡田克也代表が「採決を取りやめ、憲法違反の政府案を撤回することを強く求める」と表明。維新の党の松野頼久代表は「審議を打ち切り、強行採決を行ったことは、言語道断の暴挙だ」と述べました。

共産、民主、生活、社民の4野党の議員は本会議退席後、採決に抗議する緊急院内集会を開催。各党を代表して志位、岡田両氏と、玉城デニー・生活幹事長、吉川元・社民副幹事長の両衆院議員がスピーチ。「参院審議で追い込み、国民と力を合わせて廃案に向けてがんばろう」とシュプレヒコールをあげました。

志位氏はスピーチで、予算案や条約案とは異なり、法案には「自然成立」がないこと、安倍政権が戦争法案を成立させるためには参院で強行採決するか、衆院で再議決を強行するしかないと指摘。「(安倍政権が再び)法案の強行をできない状況に、国民の世論と運動、そして野党が一丸となって追い込んでいこう」と力をこめました。

衆院での強行採決を受け、国会論戦の舞台は参院に移ります。日本共産党は、国会議員団総会を開き、戦争法案廃案のために全力をつくす決意を固めあいました。

志位氏は、あいさつで、沖縄の米軍基地問題、原発の再稼働問題、戦後70年にあたっての首相の歴史認識問題などをあげ、「参院段階のたたかいを展望した場合、どの問題も、安倍政権にとって大難問です」と強調。「あらゆる分野で国民のたたかいを発展させ、合流させて、安倍政権を打ち倒し、戦争法案を必ず廃案に追い込もう」と訴えました。

戦争法案

国民主権の大原則を蹂躙する歴史的暴挙

「戦闘地域」での兵站――憲法違反の武力行使に道を開く

戦乱が続く地域での治安活動――「殺し、殺される」戦闘になる

集団的自衛権行使容認――「合憲論」の「根拠」はことごとく崩壊した

立憲主義否定の行き着く先は独裁政治――戦争法案は必ず廃案に

日本共産党の志位和夫委員長が16日、衆院本会議で行った戦争法案に対する反対討論、

空前の歴史的暴挙に抗議する

潮流

自公による強行採決の後、多くの憲法学者がマスメディアで安保法案は「違憲」と改めて批判しています。その1人、長谷部恭男・早大教授は「立憲主義の危機がまた一段と深まった」と▼自民党推薦の参考人として呼ばれた憲法審査会の場で違憲と明言し、注目された同教授。このタイミングでの強行を、アメリカと先に約束してしまった安倍首相の個人的な事情でしかないとし、「主権者たる国民をどう考えているのか」と苦言を呈しました▼日本ペンクラブ浅田次郎会長は「法治国家としての基礎すらも失いつつある」。国民の意思によって定められた法にもとづき国政は行われる―。その大原則が崩されようとしていることに強い危機感を抱いているのです▼立憲主義や国民主権は、時の権力者によって多数の人びとが翻弄され、苦しめられてきた歴史から導き出してきたもの。衆院本会議の反対討論で志位委員長は力を込めました。「立憲主義を否定し、法の支配を無視した政治の行き着く先は、独裁政治にほかならない」▼沖縄では、圧倒的な反対の声に加え、第三者委が辺野古の埋め立てに「瑕疵がある」と結論づけた基地建設をごり押し。さらに国民多数が反対する原発再稼働の動きも着々と。日本の主権をアメリカに売り渡すTPP交渉にも密室協議のまま参加しようとしています▼首相みずから国民の理解が得られていないと認めながら「私が正しい」とばかりに突き進んでいく。そんな独裁政治が長続きするわけがありません。

〈2015・7・17〉

しんぶん赤旗
日刊●月 3497円
日曜版●月 823円